

2016. 1.14 筑後支部 合同症例報告会

前十字靭帯再建術後 Cyclops 病変を認めた症例

江本ニーアンドスポーツクリニック
リハビリテーション部 松本丞司

【はじめに】

前十字靭帯（以下 ACL）再建術後の膝伸展制限は、ADL やスポーツ復帰において支障きたす場面がある。伸展制限の原因の1つとして、Cyclops 病変（以下 Cyclops lesion）があげられる。Cyclops lesion は、ACL 再建術後に再建靭帯前方に形成される線維性結節病変で、それにより膝伸展制限をきたした状態が Cyclops syndrome である。¹⁾

今回、左膝抜釘時に再鏡視を行った際に大腿骨顆間窩骨孔周囲に Cyclops lesion を認め、伸展制限を呈した症例を経験した為、以下に報告する。

【症例紹介】

年齢：30 代前半 性別：男性
身長：166cm 体重：67.5kg BMI：24.4
診断名：両 ACL 再建術後
術前 ADL:全自立
職業：事務、営業
スポーツ：フットサル 利き足：右
demand：フットサルへの復帰

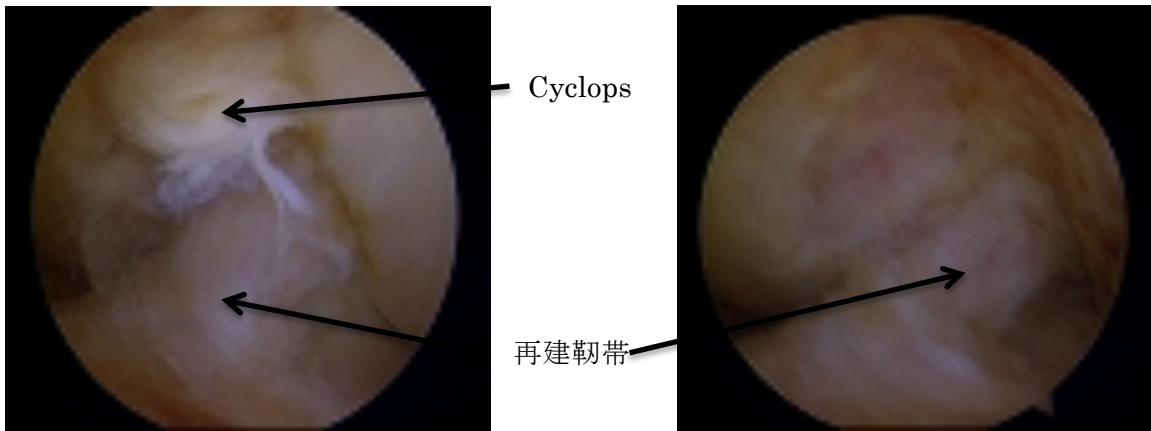
【現病歴】

本症例は、6 年前に他院にて左 ACL 再建術、2 年前に当院にて右 ACL 再建術を施行した。抜釘術前の主訴は、フットサルプレー中の左膝の違和感であった。疼痛はなく、ADL、スポーツに支障はないもののフットサルプレー中のジャンプ動作、方向転換時の違和感、キック時の左膝屈伸運動の遂行困難。また、等速性膝筋力測定時に左膝伸展筋力が発揮しにくいと訴えていた。平成 27 年 8 月に両側抜釘術を施行した。

【関節内所見】（左膝所見）

処置前

処置後



【理学療法評価】

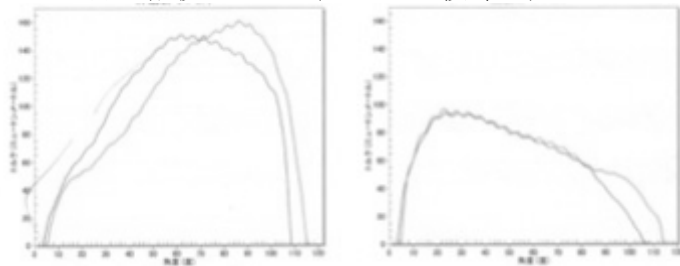
1. 膝関節可動域 (°) ※右：再建術後2年 左：再建術後6年

		抜釘前		抜釘後（翌日）	
		右	左	右	左
Active	伸展	-3	-5	-3	-5
	屈曲	145	140	145	140
Passive	伸展	0	-3	0	0
	屈曲	150	150	150	150

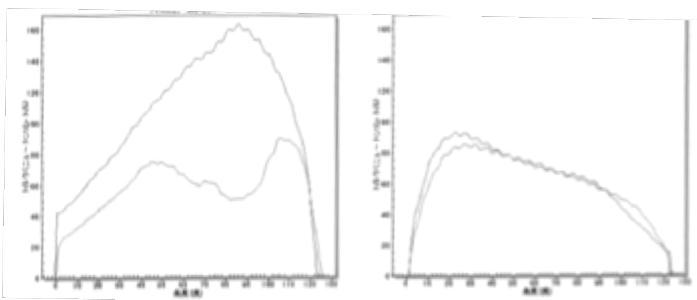
2. 筋力測定

等速性筋力 CYBEX60° /sec

Ⓐ ACL 再建術後7カ月（スポーツ復帰時）



Ⓑ ACL 再建術後24カ月（抜釘術前）



㊦ACL 再建術後 7 ヶ月 (スポーツ復帰時)

	右	%BW	左	%BW	健患比
伸展筋力	151	221	160	235	106%
屈曲筋力	94	137	96	143	102%

㊦ACL 再建術後 24 ヶ月 (抜釘術前)

	右	%BW	左	%BW	健患比
伸展筋力	164	242	89	132	56%
屈曲筋力	92	136	85	126	93%

等尺性筋力 mobie にて測定

膝伸展筋力 (単位 : kgf)

右	左	健患比
66.8kgf	64.9 kgf	97%

【目標設定】

- 術後早期 : 左膝関節可動域の獲得
左膝屈伸運動の円滑性向上
- 長期目標 : フットサル完全復帰

【考察】

Wang J,AoY、Delcogliano A ら

ACL 再建術後の Cyclops lesion 発生率は 12~14%。

(Analysis of different kinds of cyclops lesion with or without extension loss

Arthroscopy 2009 25(6) P626~631

Light and scan electron microscopic analysis of cyclops syndrome

Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 1996 4(4) P194~199)

森重 ら

腫瘍の病理学的所見は炎症性肉芽組織とフィブリン沈着である。

(「ハムストリングス腱を用いた二重束前十字靭帯再建術後に生じた Cyclops syndrome の 3 例」

JOSKAS 2011 年 3 月 Vol.36 No.1 P60~61)

吉矢 ら

ACL 再建術後の fibrovascular nodular formation により起こる膝伸展制限を Cyclops syndrome⁵⁾ という。

(「膝関節鏡下手術」 2010 年 6 月 第 1 版第 2 刷発行 P212)

今回、Cyclops が発生した事が膝関節伸展運動の阻害因子になっていたと考える。理学療法評価で左膝伸展可動域が、Passive-3° であった。抜釘術後は、Cyclops の処置により Passive0° と改善を認めた。

Jackson ら

関節鏡検査で Cyclops に対し処置を行った後、膝関節伸展制限は全てのケースで改善した。

(Loss of extension following intra articular anterior Cruciate ligament reconstruction

Arthroscopy6 1990 P171~178)

本症例も同様に、Cyclops 処置後により伸展可動域改善が認められた。この事から、Cyclops が左膝伸展制限を起こした要因である可能性は高いものとする。

前田 ら

Cyclops 除去後の結果で、膝関節伸展制限と膝関節痛が消失し、膝関節伸展筋力は著明に改善した。

(「膝前十字靭帯再建術後に発生した Cyclops lesion により膝関節伸展制限をきたした症例の膝関節伸展筋力について」

JOSKAS 2012 年 6 月 Vol.37 No.3 P533~536)

抜釘術前の等速性筋力測定において、左膝伸展筋の筋力低下を認めた。本症例は遠方で多忙である事もあり、まだ術後筋力測定は未実施であるが、Cyclops が筋力制限因子になっていたことが予測される。今後、筋力測定を実施し、Cyclops が膝関節伸展筋力低下を起こす要因であるか検討していきたいと考える。

【まとめ】

- ・左膝前十字靭帯再建術後、Cyclops 病変を認めた。
- ・抜釘前の評価で、膝関節伸展可動域制限、等速性膝伸展筋力低下を認めた。
- ・術後の膝関節伸展可動域で改善を認めた。